

令和元年度考古学講座「庚寅銘大刀の謎に迫る」掲載写真の撮影・投稿はご遠慮ください

1) 第1回「日本人と暦—庚寅銘大刀と暦日—

2019年5月18日(土)

活水女子大学国際文化学部・日本文化学科

細井浩志

2) はじめに

- 一 庚寅銘大刀の暦日
- 二 古墳時代と暦
- 三 暦からみた庚寅銘大刀の位置づけ
- 四 律令国家と暦
- 五 暦と平安貴族
- 六 中世社会と暦
- 七 近世の暦

<休憩>

八 暦のしくみ—新暦と旧暦

- (1) 現在の暦—太陽暦
- (2) 太陰暦
- (3) 旧暦—太陰太陽暦
- (4) 暦の思想—観象授時と時令思想

おわりに

※史料は庚寅銘大刀と特に断ったもの以外は書き下しにしています。

3) はじめに—講演のメイン

庚寅銘大刀の暦日（「大歳庚寅正月六日庚寅」）を理解する

4) 一 庚寅銘大刀の暦日 庚寅名大刀の日付を探る

5) 6) 元岡 G6 号墳

7) 元岡 G6 号墳の築造年代

だいぶ破壊されているが、考古学的所見は7世紀初頭築造（『元岡・桑原遺跡群 22』第4章）→庚寅銘大刀はそれ以前の埋葬・製作

8) 福岡県元岡古墳群G6号墳出土鉄刀（福岡市埋蔵文化財センター提供）

9) 大歳庚寅正月六日庚寅日時作刀凡十二果練

10) 読みは？

大歳庚寅、正月六日、庚寅の日、時に刀を作ること凡（すべ）て十二、果して凍（きた）う。（東野治之説：元岡2018）

大歳庚寅、正月六日、庚寅の日、時に刀を作る。凡（およ）そ十二（口）、果（よ）く練（ね）らる。（福田俊昭説：大谷2014）

11) 「十二」の意味

- ・大刀十二口を作った（東野・福田説）
- ・練った回数は「百練」などとする人が多い

- ・この刀を十二回練って作った（坂上説〔元岡 2018〕）
- ・「十二」は音律・暦月の数で意味がある

12) 「大歳庚寅正月六日庚寅」はいつ？

- ・大歳庚寅・干支年が庚寅（かのえとら）
- ・正月六日・旧暦なのでだいたい一ヶ月遅れ（2月初旬頃）
- ・庚寅・この年の正月6日が干支で庚寅の日

13) まず干支（えと）とは？

- ・年月日につけられる、甲子（かっし 0）～癸亥（きがい 59）まで 60 で1サイクルの記号

十干十二支

甲 <small>きのえ</small>	乙 <small>きのと</small>	丙 <small>ひのえ</small>	丁 <small>ひのと</small>	戊 <small>つひのえ</small>	己 <small>つひのと</small>	庚 <small>かのえ</small>	辛 <small>かのと</small>	壬 <small>みづのえ</small>	癸 <small>みづのと</small>
0 甲子	1 乙丑	2 丙寅	3 丁卯	4 戊辰	5 己巳	6 庚午	7 辛未	8 壬申	9 癸酉
10 甲戌	11 乙亥	12 丙子	13 丁丑	14 戊寅	15 己卯	16 庚辰	17 辛巳	18 壬午	19 癸未
20 甲申	21 乙酉	22 丙戌	23 丁亥	24 戊子	25 己丑	26 庚寅	27 辛卯	28 壬辰	29 癸巳
30 甲午	31 乙未	32 丙申	33 丁酉	34 戊戌	35 己亥	36 庚子	37 辛丑	38 壬寅	39 癸卯
40 甲辰	41 乙巳	42 丙午	43 丁未	44 戊申	45 己酉	46 庚戌	47 辛亥	48 壬子	49 癸丑
50 甲寅	51 乙卯	52 丙辰	53 丁巳	54 戊午	55 己未	56 庚申	57 辛酉	58 壬戌	59 癸亥

14) 十干と十二支の組み合わせで 60 通り

庚寅は金の兄（十干） + とら（十二支）

十干

	木	火	土	金	水
兄	甲	丙	戊	庚	壬
女弟	乙	丁	己	辛	癸

十二支

子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥

ね・うし・とら・う・たつ・み・うま・ひつじ・さる・とり・いぬ・い

兄・・・え 女弟・・・と

15) 干支の役割

- ・干支は古代中国で誕生
- 年月日表記や暦計算で使用
- ☆ 60 が 1 サイクルなのは計算に使いやすい ex60 分、60 度
- ・干支年は朝鮮三国（高句麗・百済・新羅）・倭（日本）でも使用
- ・年号使用以前は干支年表記が一般的
- ・日付も干支での表記が多い

16) 「大歳」での干支年表記は百済が使用

☆『日本書紀』継体天皇 25 年（531）12 月庚子条引用の「百濟本記」
 ……「百濟本紀」を取りて文をなす、その文にいわく、「大歳辛亥三月、師（＝軍隊）、
 進みて安羅に至り、乞毛城に營す。この月、高麗、その王・安を弑す。また聞く、日本
 の天皇および太子・皇子ともに崩薨す。」

☆「百濟本記」は『日本書紀』の材料となった百濟人作成の書物
 →庚寅銘大刀は百濟人（その影響を受けた人）の製作

17) (次に) 百濟が使う暦法（暦の計算方法）・・元嘉暦

・・其の俗は騎射を尚び、書史を読み、吏事を能くす。また医薬、著龜、占相の術を知る。
 両手をもって地に抛り敬を為す。僧尼有り、寺塔多し。鼓角、・・笛の楽、投壺・・弄珠の
 戲有り。宋の元嘉暦を行い、建寅月（＝1 月）を歳首と為す。・・毎に四仲の月（＝2・5
 ・8・11 月）をもって、王は天及び五帝の神を祭り、其の始祖仇台の廟を国城に立てて
 歳に四たび之を祠る。・・（『隋書』百濟伝）

→倭も百濟の影響で 7 世紀末まで元嘉暦による暦を使用

18) (以上から) 「大歳庚寅正月六日庚寅」が西暦何年何月何日かを調べられる
 (条件)

- ・古墳築造の 7 世紀前半から極端にさかのぼらない期間
- ・復元された元嘉暦の暦日で、
- ①干支年が庚寅
- ②正月 6 日が庚寅

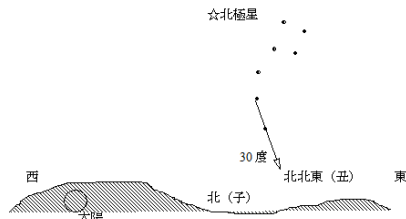
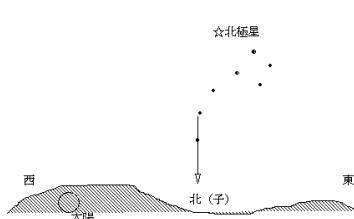
の日を捜す（内田正男『日本暦日原典』で）

→西暦 570 年の庚寅年しかない。

19) (結論) 庚寅銘大刀は欽明天皇 31 年正月 6 日（西暦 570 年 1 月 27 日※）製作の可能性がきわめて高い※ユリウス暦

20) (なお) 毎月の干支もあり・・昔の北斗七星の向きと関係

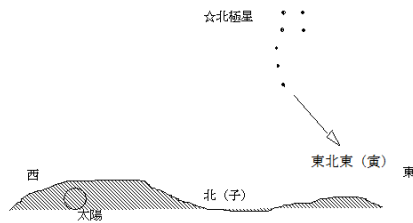
昔の中国の 11 月はじめの日暮れどき 昔の中国の 12 月はじめの日暮れどき



十二支と月

十二支	子	丑	寅	卯	辰	未	午	未	申	酉	戌	亥
曆月	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

21) 正月は寅（建寅）の月

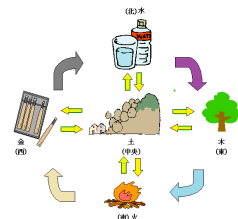


22) (だから) 庚寅銘大刀は三寅劍（東野ほか説 [元岡 2018]）

- ・ 庚寅年
 - ・ 正月建寅月
 - ・ 6日庚寅 → トラ・トラ・トラ
 - ・ 中国では古代より寅が重なった三寅劍・四寅劍が尊ばれる
- ex1 日の始まりは明け方の寅時、鎌倉幕府4代将軍藤原頼経の幼名は三寅

23) (また) 中国の陰陽五行説では・・・

世界は陰陽とその展開した五要素（五行）の組み合わせでできているという思想が陰陽五行説



24) 十干の五行配当→庚は金の兄

25) (だから) 庚寅銘大刀はめでたい！

庚（かのえ）という刀にふさわしい「金」気の強い年と日で、
かつ
寅年・寅月（=正月）・寅日
という目出度い時に
作った刀。→幸運をもたらす大刀である

26) (では) 庚寅銘大刀は誰が元岡の豪族に与えたのか？

→それには古墳時代の暦の知識が必要

27) 二 古墳時代と暦

古墳時代の暦の普及度

28) 古墳時代の有銘刀剣の暦日

古墳時代の有銘刀剣の暦日 (参考: 佐藤 2004・坂上 2013)

	名称	西暦	出土・伝来場所	暦日
1	「中平」銘刀剣	184～189	奈良県東大寺山古墳	中平□□五月丙午造作
2	七支刀	369	奈良県石上神宮	泰□四年十□月十六日丙午正陽造
3	「治天下」銘大刀	5世紀後半	熊本県江田船山古墳	八月中用大鉄釜
4	「辛亥年」銘鉄剣	471	埼玉県稲荷山古墳	辛亥年七月中記
5	「庚寅年」銘大刀	570	福岡県元岡 G 六号墳	大歳庚寅正月六日庚寅日時作刀
6	「戊辰年」銘大刀	608	兵庫県箕谷二号墳	戊辰年五月□
7	「丙子榎林」銘大刀	7世紀?	大阪府四天王寺	丙子榎林
参	人物画像鏡	503カ	和歌山県隅田八幡宮	癸未年八月日十大(六?) 壬午

29) (まず) 倭 (日本) への暦の伝来

『魏略』「其の俗、正歳四節を知らず、但し春耕・秋収を計りて年紀となす」

→ 3世紀の倭は暦なし

→ 表の中平銘刀剣 (2世紀後半の製作) は大陸からの持ち込みだろう

30) 朝鮮半島での百済の急成長

楽浪郡 (313年)・帯方郡滅亡

→ 中国系遺民を迎え入れる

☆ 政治制度整備の一環として、中国の暦文化が導入・発達した可能性

31) (そこで) 百済王世子が倭王に与えた石上神宮七支刀に注目 (原文)

(釈文は木村二〇〇四などによる)

(表) 泰和四年十□ (五カ) 月十六日丙午正陽造百練七支刀出辟百兵宜供侯王□□□□作

(裏) 先世以来未有此刀百济王世子奇生聖音故倭王旨造(伝)示(後)世

32) 百済は干支年表記・年号なし

→ 「泰和」は百済が朝貢した東晋の年号だろう

☆ 「泰和四年」= 太和4年 (369) の可能性が高い

(では) 「十一月 (五月説も有力) 十六日」か?

→ (だが) 景初暦による東晋の泰和4年復元暦を調べると16日が丙午正陽になる月はない

→ (通説) 中国で金属製品製作の吉日とされた丙 (ひのえ=火の兄)・午 (うま→南=火) の干支をとりあえずつけた。五月 (仲夏) 丙午なら最適

ex 表の中平銘刀剣も「五月丙午」製作

33) 架空の干支に関連して→百済人の日付認識は6世紀前半でも未成熟

武寧王墓誌

寧東大將軍百濟斯麻王、年六十二歲癸卯年(523)五月丙戌朔七日壬辰に崩ず。乙巳年(525)八月癸酉朔十二日甲申に到りて、登冠大墓に安厝す。

武寧王妃墓誌

丙午年(526)十二月、百濟国王大妃寿終る。……己酉年(529)二月癸未朔十二日甲午、改めて葬り大墓に還る。

→武寧王の死亡月日はわかる。王妃は死亡月しか知られない。

→改葬の日付がわかるのは次の聖王が執行したから

34) (つまり) 6世紀前半の暦の状況は……

百濟王は暦をもっている →日付が分かる

一般の貴族は暦を常備していなかった可能性 →王妃の亡くなった日付さえ記さないましてや多くの人は暦をもっていなかったろう

→「今日が何月か」くらいだけ知っているか

35) ましてや369年の百濟は……

・暦は使い始めていても普及していないだろう

・暦日の意識が低くても当然

→七支刀で太和4年某月16日に縁起がいい「丙午正陽」を勝手につけても大して「悪い」と思わなかったはず

36) では百濟と連携し、その影響が強かった倭国の暦の使用実態は？

→刀劍の銘文を見ても……

37) 辛亥年(471) 銘 稻荷山古墳出土鉄劍

(表) 辛亥年七月中に記す。乎獲居臣の上祖の名意富比土危、其兒多加利足尼、其兒の名弓已加利獲居、其兒の名多加披次獲居、其兒の名多沙鬼獲居、其兒の名半弓比、

(裏) 其兒の名加差披余、其兒の名乎獲居臣、世々杖刀人の首として、事え奉り来たり今に至る。獲加多支鹵大王(ワカタケル大王) 寺、斯鬼宮(=磯城宮)に在る時、吾れ天下を左け治め、此の百練の利刀を作らしめ、吾が事え奉る根原を記すなり。

38) 江田船山古墳出土大刀銘の暦日(原文)

治天下獲□□□鹵大王(ワカタケル大王) 世、奉事典曹人名无^利弓、八月中、用大鐵釜、并四尺廷刀、八十練、^九十振、三寸上好刊刀。服此刀者、長壽、子孫洋々、得□恩也。不失其所統、作刀者名伊太^利、書者張安也

39) (つまり) ワカタケル大王(雄略天皇)に仕える豪族が暦を「使用」

→ただし「○月中」表記 ☆古代朝鮮木簡にも「○月中」表記あり

・朝鮮の吏読的用法(「○月に」)(森2011)

☆『日本書紀』の比較的信用できる記事(5世紀以前)の暦日は「○月」まで(細井2018)

→5世紀の倭でも豪族レベルは日付を認識せず

40) (裏付け)「ワタシ、×年×月に天皇様のご命令をいただいて、ずっと待っておりました。」(『古事記』下)

然るに、(雄略)天皇既に先に命ずるところのことを忘れ、その赤猪子に問いて曰く、「汝は誰が老女ぞ。何のゆえに参来つる」と。しかれば赤猪子、答えて白す、「其の年月、天皇の命を被りて、大命を仰ぎ待ち、今日に至る。八十歳を経て、今、容姿既に耆なり。更に恃むなし。然れど、己が志を顕し白さんがため、もって参出つるのみ」と。

→一途に雄略天皇(ワカタケル)を慕う引田部赤猪子が、声をかけられた日を覚えていない! ※日付まで覚えていてこそ愛の迫力があるのでは?

41)と云うことで……

→5世紀の倭では大王以外は、正確な日付がわからなかった

(理由) 頒暦(カレンダーを配る制度)がない、紙は貴重、識字率も低いはず

(実態) 多く人は天の月の満ち欠けでおおよその日の移り変わりがわかるだけ

☆当時のひと月は1朔望月

42)いよいよ庚寅銘大刀に迫ってみます

三 暦から見た庚寅銘大刀の位置づけ

43)庚寅銘大刀には日付「六日」あり

44)可能性①百済王が元岡の豪族に賜った

『日本書紀』敏達天皇12年条(583)

火鞆北国造の子・日羅は百済王に仕える→倭・百済に両属?

東野:三寅思想は広義の道教思想→倭国での製作は文化的に時期尚早

坂上(2018):百済王子恵が即位したとき、欽明17年(556)帰国時の警護を賞して筑紫火君に与えたものか

45)可能性②倭大王(欽明天皇)が賜った可能性・暦使用に変化の兆しが見えた時代

『日本書紀』欽明天皇15年(554)2月条

二月。百済、下部杆率將軍三貴・上部奈率物部烏等を遣わし救兵を乞う。よって徳率東城子莫古を貢じて、前番の奈率東城子言に代う。五経博士王柳貴を固徳馬丁安に代う。僧曇恵等九人を僧道深等七人に代う。別に勅を奉わりて易博士施徳王道良・暦博士固徳王保孫・医博士奈率王有↑麦陀・採薬師施徳潘量豊・固徳丁有陀・楽人施徳三斤・季徳己麻・季徳進奴・対徳進陀を貢ず。皆、請いにより代うなり。

→百済から暦博士が交代で大王宮廷にやってくる

☆欽明の大王宮廷で製作の大刀に百済式の「大歳」表記も十分ありえる

46) (当時の百済は軍事活動のため倭国との連携強化

『日本書紀』欽明天皇5年(545)2月条

百濟王が任那日本府と早岐に「当に三月十日をもって使を日本に発遣さん」と伝える。
 ……細かな日付を指定して命令
 →百濟との頻繁な交渉により、豪族たちも暦使用の必要性が高まった可能性（細井 2015）

47)（三寅思想に関連して）欽明天皇時代の仏教公伝に注意！

伝来年代は『日本書紀』と元興寺系史料で異なるが、この時代に百濟から仏教が伝わったのは確か。

☆当時の仏教は総合的カルチャー（新川登亀男）→三寅思想が反映されても不思議でない

☆何れにしても庚寅銘大刀は6世紀の百濟と倭の深い関係を示す貴重な遺物

48) 四 律令国家と暦

49) 律令国家建設とともに頒暦制度が整備

時期：7世紀後半の天武天皇時代に成立

方法：陰陽寮が作る暦（当初166巻）を天皇が毎年11月1日に諸司に給う

暦は書写され、各官司・貴族・地方官衙・寺院に普及

実態：8世紀の木簡には年・月・日を記したものが多い

実施理由：調庸の納入期限・近国10月30日、中国11月30日、遠国12月30日まで（養老賦役令3調庸物条）

→閏月が入ると期限は約1ヶ月ずれる→政府指定の暦の普及が不可欠

50) 中国の暦法を学び、陰陽寮の暦博士が計算して暦原本を作成

日本で使われた暦法

名称	制作者	行用開始年	備考
元嘉暦	何承天	持統5（691）以前	
儀鳳暦	李淳風	持統10（696）	日食計算には持統5年から使用
大衍暦	一行	天平宝字8（764）	
五紀暦	郭獻之	天安2（858）	大衍暦と併用
宣明暦	徐昂	貞観4（862）	
（符天暦）	曹士蔭	天徳元（957）伝来	改暦手続きのないまま宣明暦と併用
貞享暦	渋川春海	貞享2（1685）	
宝暦暦	安倍泰邦ら	宝暦5（1755）	
寛政暦	高橋至時ら	寛政10（1798）	
天保暦	渋川景佑ら	弘化元（1844）	以上が太陰太陽暦
グレゴリオ暦	-	明治6（1873）	太陽暦

51) 太陰太陽暦なので計算が面倒です

嘉元3年（1305）の暦計算原稿の（見行草）の模式図（細井 2014）

て日の吉凶を知る。次に楊枝を取りて西に向かい手を洗え。次に仏名を誦して尋常に尊重するところの神社を念ずべし。次に昨日の事を記せ（細字省略）。次に粥を服す。次に頭を梳り（細字省略）、次に手足のつめを除け（丑の日に手のつめを除き、寅の日に足のつめを除く）。次に日を扱ひて沐浴せよ（細字省略）。沐浴の吉凶（細字省略）……

59) 実際先の具注暦でみると

正月 19 日 戊寅に「足甲（足の爪）を除く」

正月 30 日 己丑に「手甲を除く」とある

60) 特に年月日で方角を変える暦神を重視（背景には）平安京の東西南北は明確

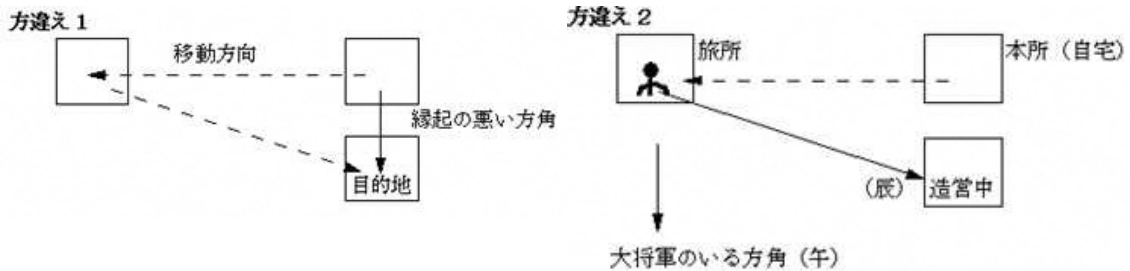
八将神の所在方位

豹尾	黄幡	歳殺	歳破	歳刑	大陰	大将軍	大歳	神/歳
戌	辰	未	午	卯	戌	酉	子	子
未	丑	辰	未	戌	亥	酉	丑	丑
辰	戌	丑	申	巳	子	子	寅	寅
丑	未	戌	酉	子	丑	子	卯	卯
戌	辰	未	戌	辰	寅	子	辰	辰
未	丑	辰	亥	申	卯	卯	巳	巳
辰	戌	丑	子	午	辰	卯	午	午
丑	未	戌	丑	丑	巳	卯	未	未
戌	辰	未	寅	寅	午	午	申	申
未	丑	辰	卯	酉	未	午	酉	酉
辰	戌	丑	辰	未	申	午	戌	戌
丑	未	戌	巳	亥	酉	酉	亥	亥

大将軍の進行日（本所以外は各 5 日間）

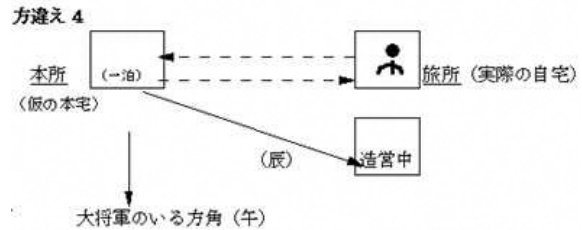
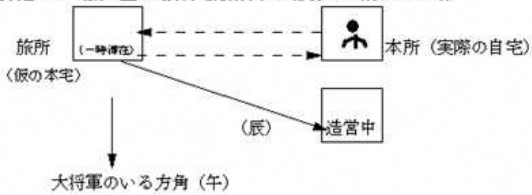
甲子日～戊辰日	卯方
戊子日～壬辰日	申宮（屋内）
丙子日～庚辰日	午方
庚子日～甲辰日	酉方
壬子日～丙辰日	子方
巳日ごとに本所に還る	

61) (そこで) 方違い (1・2) が発生



62) 節分 (立春前日) の方違い (3・4) が盛んに

方違い 3 (派生型の場合、旅所滞在は節分の 1 泊のみで可)



- 63) (ちなみに) 恵方巻の原型・歳徳神もあり
 (なお) 2019 年は己亥年→恵方は甲 (東北東やや東より)

歳徳神の方位 (渡邊 1984 による)

年の干	歳徳の方位 (としとく)	歳徳合
甲 己	寅卯の間	きのえ (甲) の方
乙 庚	申酉の間	かのえ (庚) の方
丙 辛	巳午の間	ひのえ (丙) の方
丁 壬	亥子の間	みつのえ (壬) の方
戊 癸	巳午の間	ひのえ (丙) の方
		みずのえ (壬) の方

方位への十二支配当



- 64) 六 中世社会と暦 暦が日本社会に深く根付き、各地域で造られた暦が誕生

65) ①三島暦の誕生 (13 世紀の東国)

三島暦とは：計算法は宣明暦だが朝廷とは別に暦を造る
 背景：鎌倉幕府の成立→京都から暦が来るのを待っていては遅い

66) ②地方暦の発生……南北朝時代 (14 世紀)

前内大臣北畠顕統の歌 (『新葉和歌集』 卷 16 雑歌上 1139 番)

暦術など習ひ伝へ侍りける時、見行草の第四段の進退といふ所にてよみ侍りける

前内大臣顕

年浪の進み退く事もあらじ 流るゝ月日道しかへずは

☆南朝貴族の暦術習得……下向先で独自に暦を造るため？

⇒地方暦の発達を促す？

67) ③室町時代に京都では摺暦座が成立

摺暦 (印刷暦) の発生……暦需要の拡大

背景：経済の発達で商取引が盛んに→日付の指定が必要

☆地方暦もさらに発達

68) 七 近世の暦 江戸幕府による暦の統制

69) 『泰重卿記』 元和 3 年 (1617) 6 月条 (陰陽師で暦の元締め・安倍泰重の日記)

一日、甲午、晴。今日は珍重なり。然りといえども府中 (= 駿府) 三嶋の暦を用う。今日朔を五月晦日と町御域の由、承り及び候。朔日が朔日ならず晦日なり。予は京の暦を用い朔日に用い申し候。江戸は京の方流の御用の由、承り及び候。

二日、乙未、天晴。今日は六月朔日の由、他より礼者あまたござ候。外れ違わしむるは

いかんいかん。不審存じ候。

70) 地方暦の分立は全国支配に不都合

(たとえば) 幕府が動員命令を出しても、大名が自分の地元の暦で動いたら、集合日がばらばらになる

→当時の暦法だと1ヶ月異なることも⇒幕府は貞享暦で全国の暦を統一(1685年)

☆貞享暦は中国の授時暦を渋川春海が研究して、改定した暦法

71) なぜ暦法を変えるのか?

貞享暦：5代将軍徳川綱吉の時代

宝暦暦：最初の計画は8代将軍吉宗の時代

寛政暦・天保暦：江戸時代三大改革の時の年号

☆中国皇帝は新しい治世のアピールに暦法を変えた(古代日本の暦法変更も政治的思惑あり) →たぶん将軍・老中筆頭たちのアピールが目的

☆より正確な暦でないといけないという気持ちもあったろうが

72) 例外は薩摩藩! ……遠方が口実

土御門家(安倍氏)・幕府天文方で藩士が暦法学習→独自暦作成

安永8年(1779)明時館設置→天体観測と暦の編纂

琉球王国使用の時憲暦(清暦)の影響を受けた暦注使用

73) (なお)九州では多種多様な暦が使われた

・カクレキリシタンのグレゴリオ暦に基づく行事(かなり不正確らしいが)

・長崎出島のオランダ人は18世紀までユリウス暦使用

・長崎唐人屋敷の中国人は中国暦(明暦・清暦)使用

・幕末開港後に長崎に来た欧米人はグレゴリオ暦使用

・ロシア人はユリウス暦を使用

☆ヨーロッパへの窓口長崎に近い⇒杵築藩医の麻田剛立が西洋天文学研究

⇒剛立の弟子たちが寛政暦・天保暦制定を主導

74) 近現代

明治6年(1873)は閏月のある年

⇒財政難の明治政府は役人の1月分の月給カットのため太陽暦採用

天社神道(陰陽道)は国家神道の邪魔⇒暦注廃止、旧暦排斥

庶民：生活に密着した旧暦が必要→ひそかに旧暦使用

(高度経済成長期まで)

75) 前半は終了です

1) 「日本人と暦」 (後半の部)

2) 八 新暦と旧暦

暦の分類

- ・ 太陽暦 (日本で普通に使う暦)
- ・ 太陰暦 (イスラム教徒の暦)
- ・ 太陰太陽暦 (いわゆる旧暦)

3) (1) 現在の暦—太陽暦

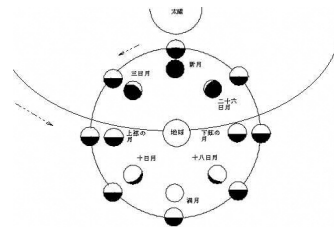
地球が太陽を1周…1年 (約365.2422日)

4) グレゴリオ暦…3300年で1日しかずれない暦法

- ・ 1年 (平年) = 365日
- ・ 2月は28日、4/6/9/11月は30日
- ・ 西向く侍以外の月は31日
- ・ 4で割れる西暦年は閏年 (2月が29日)
- (例外) 100の倍数年は400で割れる年だけ閏年
- 2000年 × 1800年 × 1900年 × 2100年
- ・ 平均1年 = 365.2425日 (実際は365.2422日)

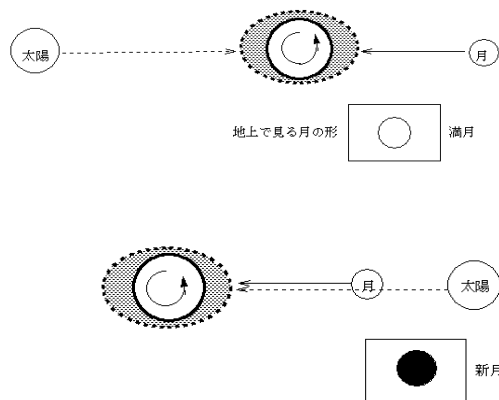
5) 太陰暦

- ・ 月の満ち欠けの1周期 (1朔望月) = 1ヶ月
- ・ 新月 = 朔、ついたち
- ・ 新月の起こる日を、1ヶ月の第1日目とする
- 暦と月の相が一致 (長所)

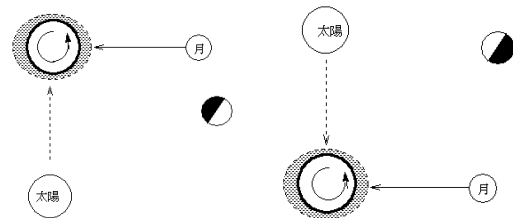


6) 潮汐と日・月の関係

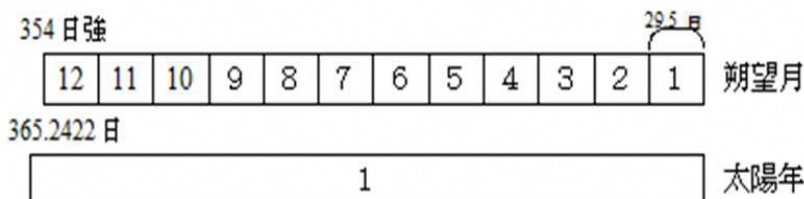
大潮 (新月・満月の時)



小潮 (上弦・下弦の時)



7) 太陰暦の1年 (354日強) → 1 太陽年に約11日不足
 → 季節と暦月がずれていく弱点あり



8) (3) 旧暦—太陰太陽暦

- ・月の満ち欠け (太陰暦) は時の目安
 - ・海では潮の干満に関わる朔望月が大事
 - ・農民には季節を反映する太陽暦が必要
- ⇒ 太陰太陽暦の誕生

9) 太陰太陽暦の仕組み

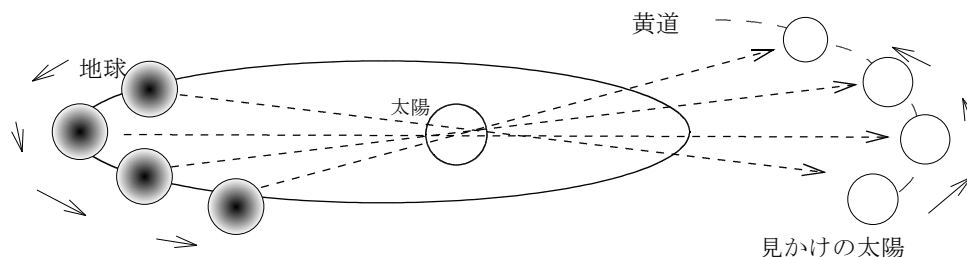
- ・1年 = 1 太陽年 (365¼日ほど)
 - ・1ヶ月 = 1 朔望月が基準 (29日 or 30日)
 - ・第1日目 = 朔 (新月・ついたち) のおこる日
 - ・1年 = 12ヶ月 (354日強)
- ⇒ 約3年に1ヶ月 (閏月) を追加して調整
 (1年 = 13ヶ月 → 平均1年 = 365¼日ほどに)

10) 二十四節気・・旧暦の「太陽暦」「黄経度」とは黄道の度数

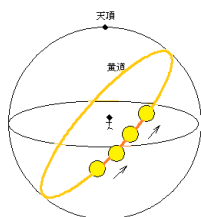
二十四節気 (定気) () 内の度数は太陽の黄経度。月日は現代の日付の例

季	節月	節	(平気)	中気	(平気)
春	正月	立春 (315度、2月4日)	2月6日	雨水 (330度、2月19日)	2月21日
	二月	啓蟄 (345度、3月6日)	3月8日	春分 (0度、3月21日)	3月23日
	三月	清明 (15度、4月5日)	4月8日	穀雨 (30度、4月20日)	4月23日
夏	四月	立夏 (45度、5月5日)	5月8日	小満 (60度、5月21日)	5月23日
	五月	芒種 (75度、6月6日)	6月8日	夏至 (90度、6月21日)	6月23日
	六月	小暑 (105度、7月7日)	7月8日	大暑 (120度、7月22日)	7月23日
秋	七月	立秋 (135度、8月7日)	8月7日	処暑 (150度、8月23日)	8月23日
	八月	白露 (165度、9月7日)	9月7日	秋分 (180度、9月23日)	9月22日
	九月	寒露 (195度、10月8日)	10月7日	霜降 (210度、10月23日)	10月22日
冬	十月	立冬 (225度、11月7日)	11月7日	小雪 (240度、11月22日)	11月22日
	十一月	大雪 (255度、12月7日)	12月7日	冬至 (270度、12月22日)	12月22日
	十二月	小寒 (285度、1月6日)	1月6日	大寒 (300度、1月21日)	1月22日

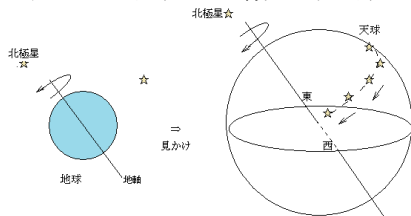
11) 「黄道」とは見かけの太陽の道



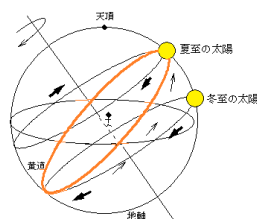
12) 地球上の人に、黄道はこのように見えます。



13) 地球は自転⇒太陽も毎日東から昇り西に沈む



14) 黄道運動で昼の長さは変化 (図は夏至の日と冬至の日)



15) 二十四節気は旧暦の中の「太陽暦」

立春・・・春の始まり 立秋・・・秋の始まり

16) 実は二十四節気は2種類あります

- ・平気 (平均節気) (寛政暦以前) $1 \text{年} \div 24 = 15.22 \text{日ほど}$
 - ・定気 (実際の節気) (天保暦・今の「旧暦」) 太陽が実際の節気点に到達した時
- ※太陽は動く速さが季節で違うため定気と平気はずれが起こる

17) 太陽の速度が変わる理由・・・ケプラーの第2法則

同じ単位時間内で、地球が $P \rightarrow Q$ 、 $P' \rightarrow Q'$ と進むとすると、面積速度 $SPQ = SP'Q'$

24) 秦帝国の成立（紀元前 221 年）⇒漢以降の中国王朝に継承・拡大
漢武帝の太初暦施行（前 104 年）

…広い領域支配には共通暦が必要 司馬遷（『史記』著者）は太史令（国立天文台長）

25) 観象授時思想

王者は天体現象を観測して民に正しい時を授けるのが義務

→中国で天文学が発達した理由

26) 時令思想

- ・二十四節気→季節ごとにすべき農作業がある
- ・孔子「時ならざれば食わず」→何事にもすべき「時」がある
- ・陰陽五行説など

⇒政治にも季節にふさわしい政治がある

例 1) 日本の養老断獄律 28：立春～立秋は死刑を決せない

例 2) 平安貴族の季節の宴会での作詩・作歌・呪術的な意味があったかも

27) おわりに

暦の仕組みの基本を知っていると、歴史が違った角度からいろいろ見えてきます

28) 主要参考文献

内田正男 1975『日本暦日原典』雄山閣出版

大谷光男 2014「太歳庚寅銘の鉄製大刀について」『東洋研究』191

木村誠 2004「百済史料としての七支刀」『古代朝鮮の国歌と社会』吉川弘文館

酒井芳司 2007「観世音寺出土文字資料について」『観世音寺 — 考察編』九州歴史資料館

佐藤長門 2004「有銘刀剣の下賜・顕彰」平川南他編『文字と古代日本1』吉川弘文館

新川登亀男 1994『日本古代文化史の構想』名著出版会

濱田耕策 2013『朝鮮古代史料研究』吉川弘文館

深津睦夫・君嶋亜紀 2014『新葉和歌集』（和歌文学大系）明治書院

細井浩志 2014『日本史を学ぶための＜古代の暦＞入門』吉川弘文館

細井浩志 2015「国史の編纂」大津透他編『岩波講座日本歴史 21』岩波書店

細井浩志 2018「『日本書紀』の暦日について」遠藤慶太・河内春人・関根淳・細井浩志編
『日本書紀の誕生』八木書店

森博達 2011『日本書紀成立の真実』中央公論新社

（報告書・図録等）

『江田船山古墳出土国宝銀象嵌銘大刀』東京国立博物館、1993 年

『元岡・桑原遺跡群 22』福岡市教育委員会、2013 年

『元岡・桑原遺跡群 30』福岡市教育委員会、2018 年

『元岡・桑原遺跡群 33』福岡市教育委員会、2019 年

29) おしまい